

好評発売中

☆堀田はりいの新しい本『神宿る沖ノ島』☆

堀田はりい(Harry Hotta)著『神宿る沖ノ島』(定価1800円+税)の注文をお受けします。

『神宿る沖ノ島』が発売され次第、著者が運営するタムボリンより、お支払い前にお送りします。予約注文の場合、[税と送料は0円](#)とし、本を受け取られてから、同封の郵便振替用紙で、又はゆうちょ銀行 店名:一九九(イチキュウキュウ)(当座)0003019 タムボリンにお振込み下さい。

ご注文はお名前とご住所を明記の上、メール song@tambourine-japan.com 又はファックス 0977-84-3343 にてお願いします。1~2日以内に発送します。

沖ノ島祭祀遺跡の謎が解き明かされた究極の一冊がここに完成！(出版社広告より)



(表紙見開き)

古代から現代まで、沖ノ島の祭りをわかりやすく徹底ガイド

書名：神宿る沖ノ島 ～古代日本人が見えてくる～ (右文書院) 3月5日発売

著者：堀田はりい(Harry Hotta) 表紙画：梅田紀代志 四六判 P288 定価1800円+税

☆協力：宗像大社 福岡県世界遺産登録推進室 春日市教育委員会ほか

どんな祭りが行われていたのか、なぜ女人禁制になったのか、船載品はどんなルートでもたらされたのか、すべての謎が解き明かされる。

《目次》

岩上祭祀イメージ画(カラー)

序章 はじめに

第1章 岩上祭祀：日神の祭りの時代

第2章 岩陰祭祀と『記紀』：天の岩屋戸の時代

第3章 死後の世界

第4章 船載品考

第5章 半岩陰・半露天祭祀と露天祭祀：律令祭祀のはじまりの時代

第6章 韓国の竹幕洞祭祀遺跡

第7章 女人禁制考と「みあれ祭」

『神宿る沖ノ島』本文《序章 はじめに》より抜粋

古代、第一段階の岩上祭祀と第二段階の岩陰祭祀の祭場において、どのような人が、どのような宗教観で、どのような祭りを行っていたのでしょうか？本著は、『記紀』の記述を重要参考資料とし、折口信夫（おりぐちしのぶ）など先人達の知恵を拝借しながら、その謎を解き明かすべく試みたものです。その結果、見えてきた祭りの姿をいくつか断定的に述べさせていただくと、次のようになります。

- 沖ノ島の岩上祭祀の祭りの始まりは、冬至の頃に行われる日神を祀る祭りであったこと。
- 沖ノ島の岩陰祭祀の祭りに見られるプロセスが、『古事記』や『日本書紀』のモデルになったこと。
- 天照大御神と素戔嗚尊のうけいの勝負と同じ「神々を顕現させる」儀式が沖ノ島で行われていたこと。
- 祭りの斎主は女性だったこと。
- 女性斎主は鉄の板をかぶり物にしたこと。
- 祭祀品は土に埋めて神さまの国に帰したこと。

また、謎解きをする過程で、古代の神祭祀と葬儀の実際の姿や古代人のものの考え方が面白いように見えてきました。

- 古代人は、死と埋葬をどう考えていたか。
- 古代人は、鏡や剣や銅鐸などの祭祀品をなぜ割ったか。
- 古代人は、神さまの色は何色と考えたか。
- 古代人は、装飾古墳にどういう宗教観で、何の絵を描いたか。
- 前方後円墳は何の形なのか。
- 神さまの分祀分霊の思想はどのようにして生まれたか。
- 宗像三女神や住吉三神など三神一組の思想はどのようにして生まれたか。
- 三角縁神獸鏡の三角の縁は何を表わすのか。
- 神宮・神社祭祀の思想と古墳時代の墳墓造りの思想はいつ、どこで生まれたか。

古代人は、なぜ死者を甕棺（かめかん）に葬ったのか、なぜ古墳は円形なのか、なぜ死者の棺から絹の繊維が出てくるのか、なぜ剣や銅鐸などをまとめて地中に埋めたのかなどの謎も解けました。なぜ高松塚古墳の石室に正月の儀式の図が描かれたのかの謎も、また、なぜ持統天皇は文武天皇に譲位したのかの謎も解けました。

新羅系金銅製馬具類が出土した謎の船原古墳遺物埋納坑と積み石だけで造られた謎の古墳群「相島積石塚群」の謎解きも試みました。

勾玉が何を象（かたど）ったものかの謎も解けました。謎の多い子持勾玉（こもちまがたま）がなんであるのかも推理しました。

自ずと、なぜ神祭祀の祭祀品と古墳の副葬品とが似たものが多い「葬祭未分化」に見える状況が起こったのかの謎も解けました。

沖ノ島の祭祀遺跡からは、ペルシャ製のカットグラス碗や中国製とされる金銅製龍頭や新羅製と見られる金製指輪や新羅系馬具の金銅製馬具などが見つかっています。それらの祭祀品について、様々な文献資料や発掘報告書などをもとに、渡来ルートを含め、可能な限り検証しました。そして、最後に沖ノ島が女人禁制の島になった謎解きを行いました。すべてが、わたしにとって、楽しい謎解きでした。謎解きに当たっては、謎解きに至る過程をわかりやすくするために、謎解き資料の引用を意識的に行いました。それらの資料は、記憶されるべき文化遺産として重要なものばかりです。

どうぞ気持ちは、古代人になってお読み下さい。